

いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 3 沖縄県	亜熱帯特有の温暖な気候を活かした農業が盛んであり、サトウキビのほか、冬の夜間に電灯を照らして開花時期を調整する「電照菊」や、熱帯の果実であるマンゴーなどの栽培が特徴的です。宮崎県もマンゴーの生産で知られますが、サトウキビの生産量で比較すると、南西諸島に位置するこの都道府県が際立って高い数値を示します。
問2	答え 3 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。	シラス台地を構成する火砕流堆積物は粒が粗く、隙間が多いため、雨が降ってもすぐに地下へ浸透してしまう「水はけが良すぎる」という性質があります。そのため、常に水を張る必要がある水田には不向きであり、乾燥に強いサツマイモや、広大な土地を利用した豚・鶏・牛などの畜産業が発展しました。
問3	答え 4 他地域からの入荷量が少なく市場価格が高い時期に供給し、農家の利益を高めるため	宮崎県のような温暖な地域では、その気候条件を活かして他の地域が生産できない冬から春にかけて作物を栽培します。市場全体の入荷量が少ない時期に出荷することで、需要と供給のバランスにより価格が高騰するため、通常よりも高い収益を得ることが可能になります。このように出荷時期を調整して経済的利点を得ることが、促成栽培の大きな目的です。
問4	答え 1 敷地の周囲を石垣で囲い、屋根には赤瓦を用いてその隙間を漆喰で固めている。	南西諸島の伝統的な民家は、サンゴ礁を利用した石垣で囲まれていることが多く、これは台風などの強風から家を守る役割を果たしています。また、屋根には風に強いとされる赤瓦が使われ、さらに瓦が吹き飛ばされないよう漆喰で継ぎ目を固めているのが外観上の大きな特徴です。急勾配の屋根は白川郷などの合掌造り、防風林は関東平野や平居などで見られる工夫です。
問5	答え 2 畜産の割合が高いのが宮崎県、工業出荷額が最大なのが福岡県	宮崎県は広大な土地や気候条件を背景に、ブロイラーや豚などの飼育が盛んな「畜産王国」としての側面を持っています。対して福岡県は、北九州工業地帯の歴史的背景や、近年の自動車工場の進出などにより、九州の工業を牽引する立場にあります。選択肢に含まれる佐賀県は、平野部で米の生産が盛んですが、工業出荷額や畜産の割合で宮崎県や福岡県を上回ることはありません。
問6	答え 1 製造品出荷額は全国的に見て低い水準にあるが、温暖な気候を活かした畜産業などが盛んである。	沖縄県は全国で最も高い出生率を背景に、統計上で人口増減率がプラスを示す特徴があります。産業面では、輸送コストや電力供給の制約から大規模な重化学工業が発達しにくいと、製造品出荷額は低くなります。その一方で、肉用牛や豚などの畜産業、さらにはサンゴ礁の発達した海域での海面漁業など、地域の自然環境を活かした第一次産業が統計上の特色となっています。北海道や鹿児島県も畜産業や漁業が盛んですが、人口増減率の傾向が異なります。
問7	答え 4 天候や昼夜を問わず、火山活動による地下の熱源から常に安定して発電を続けることができる点	太陽光発電は晴天時や日中に限られ、風力発電は風の強さに左右されますが、地熱発電は地下の熱を利用するため、自然条件の変化を受けにくいという特徴があります。このため、年間を通じて安定した電力を供給できる「ベースロード電源」としての役割が期待されています。
問8	答え 2 都市機能の拡充を目的に、土砂などで海を埋め立てて新たな土地を造成した。	かつて海であった場所に公園や水族館などの大規模な施設が整備されているのは、人工的な埋め立てが行われた結果です。これにより海岸線が以前よりも沖合へ移動し、土地の利用形態が大きく変化しました。地盤の隆起や溶岩による変化ではなく、計画的な都市開発によるものです。
問9	答え 2 自然的増加	出生数と死亡数の差によって生じる人口の変動を自然的増減と呼びます。出生数が死亡数を上回れば「自然的増加」、逆であれば「自然的減少」となります。これに対し、進学・就職などの移動による増減は「社会的増減」と呼ばれ、両者を区別して理解することが重要です。
問10	答え 2 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島という活発な火山があり、周辺の台地では肉用牛や豚の飼育が盛んに行われている。	鹿児島県は薩摩半島と大隅半島という二つの大きな半島を持ち、その間にある鹿児島湾（錦江湾）には現在も活発に活動が続ける火山である桜島が位置しています。県内には火山活動に由来するシラス台地が広く分布しており、その土地条件に適応する形で肉用牛や豚の飼育頭数が全国トップクラスになるなど、畜産業が非常に盛んなのが特徴です。促成栽培やピーマンの生産で知られるのは主に宮崎県や高知県などの事例です。
問11	答え 4 土壌が火山灰や軽石を多く含み水はけが良すぎるため、水田に必要な水を確保しにくいから。	シラス台地の土壌は火山の噴出物で構成されているため、水持ちが悪く、常に水を張っておく必要がある水田には向いていません。そのため、乾燥に強いサツマイモや、排水を好む茶などの畑作が発展しました。また、栽培された飼料作物を利用した肉用牛、豚、鶏などの畜産業も、この土地の特性を活かした産業として大規模に展開されています。
問12	答え 2 さとうきび	沖縄県は年間を通じて温暖な亜熱帯気候に属しており、他の都道府県では栽培が困難な作物が中心となっています。特に、砂糖の原料となる「さとうきび」は、加工を目的として栽培される「工芸作物」に分類されます。沖縄県ではこの工芸作物の産出額が非常に大きく、統計上でも大きな割合を占めているのが特徴です。一方で、水資源の確保が難しい島嶼部の特性などから、稲作の割合は極めて低くなっています。
問13	答え 2 火山の地下にあるマグマの熱によって生じた天然の蒸気を利用し、タービンを回して発電する方式	九州地方は「火の国」とも呼ばれるように、活発な火山活動が見られる地域です。地下に存在するマグマの熱を直接エネルギー源とする地熱発電は、天候に左右されず24時間安定した発電が可能であるという利点があります。温泉や観光資源としての活用とともに、火山地帯特有の持続可能なエネルギー源として重要な役割を担っています。